



自分のカラダを見つめよう ～病気の早期発見から治療後まで～ ③

日常生活の動きの中で重要な役割を占める関節。痛みを放置せずに早期治療、ケアすることが大切です。第3回「整形外科(2)」では、膝関節、股関節、足首など、関節のさまざまな疾患の症状や、適切な治療法、リハビリについて、整形外科の専門の医師に聞きました。

整形外科 ②



ホームページはこちら
バックナンバーをご覧ください

新河端病院

半月板損傷



整形外科 部長
市場 厚志 氏

温存重視の縫合術が主流に

節の中で水がたまり、腫れる
こともあります。

Q 診断と治療は。

A まず、診察で関節や筋肉の状態、膝の動く範囲をチェックし、レントゲン撮影を行います。半月板や靭帯損傷はMRI(磁気共鳴画像装置)でしか見えないため併用して診断します。保存療法では、鎮痛剤の内服や筋力の増強、可動訓練、関節内注射などで経過を見ますが、痛みが取れにくい場合や、半月板の損傷部が引っ掛かっている場合

Q 半月板とは。

A 膝関節内の重要な組織の一つです。内側半月板と外側半月板があり、通常はCの形をしています。体重がかかったときに、軟骨を保護するクッションの役割をしてい

は、一番多くみられます。傷んでも修復の可能性があります。が、治りにくい組織です。

Q 半月板損傷の症状は。

て、はさみで切れるほどの硬さです。半月板損傷の原因は大きく分けて二つあり、スポーツや事故によるものと、加齢変化です。また、生まれつき切れやすい形をしている人もあり、子どもの膝の手術で

A 歩行時や階段の昇降で痛みがあったり、引っ掛かりを感じたりします。また、膝が真っすぐに伸びない、曲げると痛いなどの症状も出ま

す。ひどい場合は、膝の曲げ伸ばしができないロッキングという状態になります。半月板の切れた部分が挟まり、膝が動かなくなる症状です。関

は、手術が必要になることもあります。手術では内視鏡を用い、部分切除術か縫合術を選択しますが、近年は半月板を温存することを重視した縫合術が主流です。手術の翌日からリハビリを始め、しばらく松葉づえを使います。縫合術では2、3週間膝を固定し、少しずつ膝を動かすようにし

ます。予防は困難なため、膝の痛みがあれば早く整形外科を受診し、正しい診断と治療を受けるようにしましょう。

は、手術が必要になることもあります。傷んでも修復の可能性があります。が、治りにくい組織です。

は、手術が必要になることもあります。傷んでも修復の可能性があります。が、治りにくい組織です。